



## 第9回共生共走5時間リレーマラソン 盛況のうちに完了!

実行委員会反省会の報告

鈴木敬治

今年は比較的小規模であったが、とても楽しく開催出来ました。規模拡大目指す以上に続けていく事の意義を感じました。来年も宜しく願いいたします。実行委員会反省会で以下のような話をしました。

### 1. 参加者数

マラソン：19チーム（参加者数成人114 / こども20名+ ） 出店展示：20店  
ボランティア：77名 ー昨年よりマラソンは3チーム減であった。

### 2. 反省点

給水所でのトラブルが多かった / 報道機関等への連絡が不徹底であった / 費用圧縮の点で実行委員会回数を減らした意義はあったが、回数を減らして盛り上げるという当初のもくろみは未達成 / 事務局の新規メンバーも必要 / もっと障害のある人等色々な人の参加出来るイベントにすべき。

### 3. 第10回に向けて

マラソン関連イベントとして、2月5日にもちつき会、夏頃に米国からのゲストも参加して運動会を計画。リレーマラソンは10月22日か29日に予定。Tシャツ新調等、本年以上の支出が予想されるので、年明けより広報活動、助成金の獲得に力をいれます。

とにかく2月5日もちつきからイベント初め。皆様張り切っていきましょう。

## 参加チーム紹介 - 旗の台駅前整骨院

旗の台駅前整骨院 平澤清悟

この度、寄稿の依頼を受けまして、さあ何を書こうかと困惑してしまいました。毎年毎年連続して共生共走マラソンに出るのが当たり前になっていますので、私たちが参加させて頂いている理由など漠然としてしまい、体では解っているのですが、考えないと直ぐに出てきません。ですからこの参加の理由を始めとして、次いでこのマラソン大会の初参加で衝撃を受けたことや、そして連続して参加してみて何を感じどのように自分や周りが変わったのかなどのお話を率直に伝えたいと思います。ですから初心に戻って！イヤイヤ初出場の頃を思い出してみないと解りません。そしてここに携わっている人たちのことも話さなきゃいけませんね！

旗の台駅前整骨院マラソンチームを数名の友人知人、クライアントとで立ち上げたばかりの僕は、マラソン雑誌の「ランナーズ」に共生共走マラソンの事が載っていた箇所が目が留まりました。そしてなぜ参加に至ったかという、吉野家の牛丼じゃないですが安い早い美味しいの3点セットと同じことが絡んであったからです。僕達の3点セットは(参加費が)安い(家から八潮まで)早い。そして美味しいという意味にピッタリだったのが、ここ八潮は思い出の地であったからです。初出場の年の夏の暑い盛りに僕達の親父的な存在であった片山泉二監督が大腸癌で亡くなったのです。僕達はここ八潮の地周辺でいつも練習していました。時には駅伝大会もあり品川陸上競技連盟主催のしながわ夢駅伝という大会にも参加して3位で銅メダルを頂いたこともありました。それまで監督中心で回っていたこのチームをどうしたらいいかと考えていた矢先のことで、何から何までおんぶに抱っこだった僕達は共生共走マラソンの趣旨も何も解らぬまま、天国で走り続けている片山監督にチョイト後押しされた形で参加したのがきっかけです。



僕個人の意見ですが初出場の時はただただビックリでした。健常者中心の世の中で生活しているのですから身障者の方々が松葉杖で走っていたり、車椅子でマラソンを頑張っている姿を見て、何も考えられずに「エーッ」と思っただけでした。さらにはステージの前でダウン症の方と少々知恵遅れの方がマイクに向かって「アーッ」とか「ウーッ」とか言いながら踊っているではありませんか!! こんな光景は生まれて初めてでした。何も解らないで参加したんですものビックリですよ…と同時に子供の頃、僕の通う小学校の近くに全寮制で知恵遅れの方々がいる施設があったことを思い出しました。ふたば学園といったかな? 全校生徒1800人もいるマンモス校の大きな校庭にその学園のみなさんが引率されて遊びに来ているのを時々目にしました。当時は何も考えることなく違和感



があったことを記憶しています。思い出してみても学園のみなさんの空間だけが別世界なんですもの……それが当たり前とって思っていましたし、それに対する教師側の説明も曖昧なものでした。僕はこのマンモス校に転校する前の小学校で入学式を迎えたのですがこちらの学校には特殊学級という形で1年生から6年生までの数人の児童が一つの教室にいるのをピカピカの一年生の時に知りました。担任の先生は「特殊学級の生徒は身体が弱いんだから特殊、特殊

と言っちゃダメよ」と言っていたな！そこで行動的な僕は特殊学級の先生に特殊学級の生徒は身体が弱いんですかと質問をしたのですが「強い強い」と反対のことを言っていました。ですから大人になるまで曖昧な感覚でそれ以上の興味も何も考えることなどしていないのが実情でした。世の中の大多数の人たちがこんな感覚ではないのでしょうか？

僕も3人の子供の父親になりました。初参加の頃は末っ子の拓也がまだ生まれていなかったのも長女の朱花と長男の充也には、世の中にはハンデを背負って生きている人たちがいるってことを知って欲しくて参加させていました。拓也も一年生になり当然数年前からこのマラソン大会に参加するようになりました。現在は僕達が子供の頃と違って

クラスに軽いダウン症の子供がいます。そのお子さんが拓也のことが大好きだそうです。拓也も一生懸命面倒をみているようです。この間の学芸会を見てほのぼのと感じたと同時に拓也を親バカながら誇りに思いました。ほかに地域活動に触れてハンデを背負った子供達が健常者の子供達と同じように楽しめるようにと少しは僕達は行



動しています。身障者の方と家族の餅つきの会に参加したことが数回あります。どんな風に接していいのかわかりませんでしたので普通に接していましたが少しずつ解ってきました。身体が大人で3、4歳の幼児なんだということです。その方達に優しく接すると「ありがとう」の表現がボディランゲージだということです。抱きつくまではいいとしても、ホッペにチューをされてさらには嘗め回されちゃ！さすがのオレ様もビビりましたけど、その親御さんたちとの会話の中で僕が3人の子供に対する愛情と何ら変わりの無いということ、自分の子供が助けられたり守られれば嬉しいということです。ですから身障者の親御さんの立場も理解できるようになっています。先日家族でボウリングに行きましたらダウン症の方が1人と若い3人の男女のグループと隣り合わせになりました。ダウン症の女の子は恥ずかしそうにボウルを投げていました。ガーターばかりで

したが数本のピンを倒した瞬間、若い男女のグループはもちろん僕達家族もいっせいに拍手をしていました。



隣のグループのことだから関係が無いと言ってしまうとそれまでの話なのですが、何故だかその瞬間は誰もが嬉しそうでした。



僕は思います。マラソンを始めたきっかけが片山泉二監督です。モモさん(家内)ありがとう。いつも走らせてくれて!! それで僕達は共生共走マラソンに参加し続けています。ここで最初お世話になり、お話をさせて頂いた増田さん! この方は僕の子供3人の通う清水台小学校の主事さんでして、僕らが初参

加した翌年に赴任されてこられましたのには運命的な出会いみたいなものを感じました。

またいつもステージでダンスを踊ってくれている井出のおっかさん! 80歳を過ぎてもいろいろ頑張っていますね! 初参加の時、おっかさんがいたのにはビックリでした。おっかさんは15年前ぎっくり腰で来てくれた僕の大事なクライアント、そうそう女子プロレスラーの田村欣子選手にタニー



マウス選手も場を盛り上げてくれましたね。最後に松山先生! この会を主催し続けて10年以上ですよ? あなたはえらい!! 松山先生がいい人過ぎるから周りの人たちが盛り上げてくれるんだと思いますよ……今後も僕達のマラソンチームや家族をはじめ空手教室の子供達や親御さんたちをも誘ってこの会が存続する限り参加しようと思っています。



出来たらでいいのですが松山先生と一緒に島田陽子って歌を歌ってみたいな! ありがとうございます。

## - だれもがともに - もちつき大会



2/5 (日) 午前 10:00 ~ 15:00 ごろ

詳しくは同封のチラシをご覧ください。

だれもがともに連絡会・共生共走マラソン実行委員会

〒144-0051 大田区西蒲田4-32-9 TEL 03-5748-3703 FAX 03-5748-3705

留守の時はメッセージを残して下さい。こちらからご連絡申し上げます。

メール daretomo@yahoo.co.jp

<http://homepage.mac.com/pmv1/daretomo/>